

八千代市イメージキャラクター「やっぴ」



# 八千代市 農業委員会だより



## 自家農園レストラン「ロス・アンジェルス」

レストラン「ロス・アンジェルス」に野菜を提供している **杉山太一さん** (写真: 左) と、そのレストランを営んでいる父親の **杉山智基さん** (写真: 右)

取材

### 『自家農園経営について』

**Q** 自家農園を始めたきっかけは？

**【智基さん】** 自家野菜を作り始めたのは23年くらい前で、その当時は輸入の野菜も使っていたんですが、残留農薬が検出されるとニュースになっていたため、自家農園で作ってお店に提供した方が良く始めたのがきっかけです。

**Q** 自家農園は最初、どなたが始めましたか？

**【智基さん】** 私と母親と、近所の農家の方が手伝いに来てくれて始めました。最初はハーブ作りから始まり、軌道に乗ってからは夏野菜なども栽培するようになりました。今は、息子（太一さん）が中心になってやっています。

自家野菜を使った料理を提供しているレストラン「ロス・アンジェルス」の杉山さん親子にお話を伺いました。

**Q** 現在は、太一さんが自家農園の経営をメインで行っているという事で、自家農園を継ごうと思ったきっかけは？

**【太一さん】** 元々、親元で自家農園の手伝いをよくしていたことがきっかけで継ぎたいと思うようになりました。

**Q** 手伝いからメインで農業をされていく中で感じるものは違いましたか？

**【太一さん】** レストランに出せる量を採り、かつ、より良い作物をお客さんに提供できるようにということに対する責任感を実感しました。また、人手が足りないということもあり、やる事が多く、その大変さも実感しました。



**Q 自家農園経営の難しいところは？**

**【太一さん】** 毎月、季節ごとのメニューを出すために、レストランの方とどの時期からどれくらいの量の作物が採れるか打合せをするので、決めた期間に出すことに難しさを感じます。天候などにも左右されるので中々苦労します。

**Q 予定通りに作物をレストランに出すという事にプレッシャーなど感じることはありますか？**

**【太一さん】** シェフからの「このメニューを作るんだけど、この期間に採れる？」といったことに対して、しっかり作らないとなという責任感は日々感じます。ただ、その通りできた時は、達成感が大きいです。

**Q レストランに出している主な作物は？**

**【太一さん】** ハーブ、じゃがいも、なす、バジル、モロヘイヤ、しそ、アイスプラント、きゅうり、サニーレタス、大根、ネギなどです。じゃがいもは、先日収穫を終え、毎日、レストランへ運んでいます。



▲チャービル：左上  
アイスプラント：左下  
サニーレタス：右上

▲バジルをたっぷり使った  
ジェノベーゼ

▲じゃがいもの収穫をしている様子（2022/6/28 杉山農園にて）

**Q 苦労したことは？**

**【太一さん】** バジルが、「べと病」という病気にかかってしまった時、全く採れなくなり、苦労しました。その時は、ジェノベーゼというスパゲティを、何年も提供することができなかつたのですが、今年は、それに対する病気に強い品種を買い、元気に育っています。

**Q 長年続けられている理由は？**

**【お二人】** 自家農園で採れた野菜をお客様に美味しいと言っていただけると、励みになりやめられないです。

**Q 今後のビジョンは？**

**【お二人】** 続けられる限り、今の自家農園レストランとしての形態を続けたいと思っています。ただ今は、人手が足りなくて畑を一部縮小しているので、お手伝いをしてくれる人がいたら、じゃがいもを作れるくらいの畑を借りたいと思っています。じゃがいもは、毎年同じ畑だと連作障害がでてしまうので、別の畑で作り提供できるようにしたいです。

取材担当



長岡 勇 推進委員



**「ロス・アンジェルス」の始まり**

1977年4月、太一さんの祖父と元々勝田台で洋食のレストランをされていた方が一緒に、株式会社ロス・アンジェルス設立し、レストランを国道16号沿いに開業したのが始まりだそうです。「ロス・アンジェルス」と言えば、きのこスープが有名ですが、創業当時から、看板メニューだそうです。きのこには抗がん作用があり健康に良いという情報があったため、きのこを使った料理を中心に、「お客様の健康に貢献する」というコンセプトでメニューが構成されていたとのこと。開業当初のレシピは受け継がれていて、当時の味を代々作り続けているそうです。

## 農業委員会について

## 「農業委員会・農業委員・農地利用最適化推進委員の役割①」

農業委員会は、市長が議会の同意を得て任命する農業委員、農業委員会が委嘱を行う農地利用最適化推進委員で構成されています。

八千代市は農業委員14人と農地利用最適化推進委員13人が、相互に連携して農地利用最適化を推進しております。

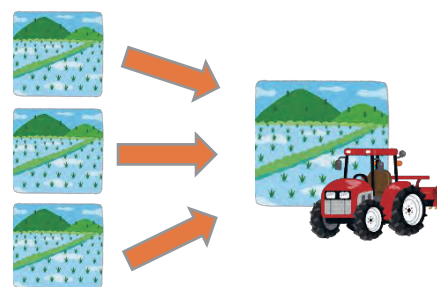
この農業委員会・農業委員・農地利用最適化推進委員は、それぞれどのような役割を担っているのでしょうか？

今回は、農業委員会・農業委員の役割についてご紹介します。



## —農業委員会の主な役割—

- 担い手への農地利用の集積・集約化
- 遊休農地の発生防止と解消
- 新規参入の促進
- 農地法に基づく農地の売買・貸借の許可や農地転用の許可など農地に関する事務の担当



▲担い手への集積・集約化

## —農業委員の主な役割—

- 農地の貸借・売買等権利の取得・移転の許可
- 遊休農地に関すること
- 農地転用の許可に関すること
- 農地利用最適化推進委員に関する指針の作成



▲許可申請に関する農地の現地確認



▲総会への出席



許可申請に関する農地の現地確認や農業委員会総会に出席して許可・不許可について話し合い、決定します。

女性委員のご紹介

# 女性農業委員 インタビュー

1/2

**黒澤 京子** × **農業委員会  
事務局**  
**推進委員**

就任：令和2年度～  
担当：佐山・平戸地区



▲令和4年7月14日インタビュー実施

八千代市農業委員会では、2名の女性委員が活躍しています。今回は、八千代市の女性委員2人目となる黒澤京子推進委員に、お話を伺いました。

## 農業との関わり

**事務局** 農家のお生まれですか？

**黒澤委員** 私の実家は全く農家に関係ないサラリーマンの家でした。

**事務局** 農家にお嫁に来たということと难道ですね。

**黒澤委員** そうです。ですが当初は、私も働いていましたので、たまにお手伝いする程度でした。子供ができてからは仕事を辞めました。

義母がはやくに亡くなり畑や田んぼの仕事は、義父と主人が中心でした。とくに主人は、お勤めと農業と、大変だったと思います。主人が定年退職し、義父が亡くなってからは、主人と二人で稲作を中心にやっています。

**事務局** 田んぼの面積はどれくらいですか？

**黒澤委員** 頼まれている所もあり、2町歩くらいです。

**事務局** お二人となると大変ですよ。

**黒澤委員** 田んぼは、一年中というところではないので、二人でスケジュール組みながらなんとかやっています。

## 推進委員になって

**事務局** 推進委員になったきっかけは？

**黒澤委員** 急遽、委員の欠員が出て、主人が私に勧めたのがきっかけでした。農業委員会の仕事をやるなんて夢にも思っていなかったです。

**事務局** 頼まれた時、どんなお気持ちでしたか？

**黒澤委員** 少しプレッシャーを感じました。近所で農業委員をされていた方は男性で、男性がやっていたり前という感覚がありましたから。

**事務局** 実際に引き受けてどうでしたか？

**黒澤委員** 引き受けたものの、色々葛藤はありました。現在も続けているJAの女性部の活動は、女性の団体なので、総会に初めて参加した時は、男性ばかりで少し後悔しました(笑)。



**事務局** JAの女性部ではどんな活動をしていますか？

**黒澤委員** JA主体のお祭りに参加したり、「八千代どーんと祭り」にJAの女性部として参加したりしています。他にも、講習会の開催や、親睦旅行の企画をしています。

## 委員の仕事について

**事務局** 推進委員に委嘱されて、具体的にどんな活動をされていますか？

**黒澤委員** 許可申請に関する農地の現地確認や、農業委員会の総会への出席、遊休農地などに対する利用状況の調査や農地台帳調査などを行っています。

その他にも、千葉県内の女性の委員が集まる研修会の出席や、委員会の活動などを行っています。

委員会活動では、私は広報委員を担当しているので、農業委員会だよりの編集に携わっています。

**事務局** 農業をしながら、推進委員の活動をするのに対して、どのよう感じていますか？

**黒澤委員** 委員の活動日数として、そんなに毎日忙しいというわけではないですが、田植えと稲刈の時期はバタバタすることがあります。あとは気持ちの部分で、女性委員としてどのようについていけばいいのかなということがあります。

**事務局** 推進委員になり、約2年経ちましたが、改めて今、活動を振り返って感じていることを教えてください。

**黒澤委員** 最初の頃は、転用などの農地法の話聞いても全くわからなく、苦労していました。でも、個人でやる仕事ではないので、事務局の方や、同じ農業委員、推進委員の方からもいろいろ教わったり助けてもらうことがたくさんあり、頑張れています。

**事務局** やりがいを感じる瞬間は？

**黒澤委員** 広報委員として、自分が携わった農業委員会だよりを見て、「頑張っているね」と声をかけてい

ただいた時です。

**事務局** 農業委員会だよりを配った時の農家の方の反応はどうでしたか？

**黒澤委員** 自分が、インタビューとして載っている農業委員会だよりを「読んだよ」と直接言っていた。この時は、照れくさかったです(笑)。こういう記事を見て、やってみようかなと思ってくれたら嬉しいですね。

**事務局** 実際に推進委員になってから地域の人に相談をされたことなどありますか？

**黒澤委員** どこのお家も後継者がはっきりいる家庭は少ないので、これからどうなるのかという心配の声はよく聞きます。

**事務局** どのような機会に農家の方の声を聞きますか？

**黒澤委員** 農地台帳調査が大きいです。個々の台帳を毎年新しく更新するため、担当地区の委員がそれぞれの地区の農家を一軒ずつ回り、今後の営農の意向を聞きに行くので、話す良い機会になります。

**事務局** 農地台帳調査や農業委員会だよりの配布で、農家を回る際に感じる

ことはありますか？

**黒澤委員** 農家も昔みたいに、昼間は必ず誰か居るといってお家が少なくなっているなと実感します。昔だったら、畑に行く途中に、近所の方と話したり、相談したりするという事が多かったけど、今はそういう機会が減ったように思えますね。なので、農地台帳調査や農業委員会だよりを配るときは、顔合わせの良ききっかけになったりします。

**事務局** 推進委員になってから心境の変化はありましたか？

▼続きは次号で



ご案内



充実した農業・農村の情報が届く！

発行日：毎週金曜日（月4回）

購読料：月額700円（送料・税込み）

申込み先：農業委員会事務局（☎421-6793）

## 令和4年度 最適化活動の目標の設定等について

農業委員会では、毎年、目標及びその達成に向けた活動計画を策定してまいりましたが、令和4年度より、これまでの計画に変わって、農地利用の最適化活動の成果目標及び活動目標を設定し、公表することとなりました。主な内容は以下のとおりです。

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

現状	市内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	825ha	279ha	33.8%
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の出し手は多く存在するものの、受け手が不足している。</li> <li>・耕作条件の悪い農地が多く、耕作放棄されやすい。</li> </ul>		

農地の集積の目標年度	令和5年度	集積率	33.1%
今年度の新規集積面積	10ha	農地面積(C)	825ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	289ha	(目標)今年度末の集積率(E)=(D)／(C)	35.0%

#### (2) 遊休農地の解消

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	75.66ha	0.00ha	75.66ha
課題	農業従事者の高齢化や後継者不足により耕作ができなくなっていることや、区画の小さく耕作条件の悪い水田は耕作放棄されやすく、遊休農地が増加しているため、再基盤整備事業の実施が課題。		

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	75.66ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	麦丸地区の再基盤整備事業について、地元委員から働きかけ事業実施を推進する。事業について市と協議を行う。

#### (3) 新規参入の促進

権利移動面積	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均
	15ha	31ha	18ha	22ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積				2.7ha

### 2 最適化活動の活動目標

#### (1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	0人
		農地利用最適化推進委員の人数	13人

#### (2) 活動強化月間の設定目標

取組時期	取組項目	強化月間の内容
12月～2月	農地の集積、遊休農地の解消	台帳調査を通じて、今後の農地利用について聞き取りを行う。

新規参入相談会への参加回数	1回
---------------	----

※詳細については市ホームページをご覧ください。

## 「令和5年度八千代市農業施策に関する意見書」の提出について

令和4年9月26日、農業委員会から服部友則市長へ「令和5年度八千代市農業施策に関する意見書」を提出しました。意見書の内容は次のとおりです。



### 1 多目的防災網への市単独補助

農業に関するアンケートでは鳥獣による被害のうち、「鳥類」による被害が特に多いと答えた割合が52%となっています。露地作物においては鳥類対策が困難ですが、梨においては、多目的防災網による防除が可能です。多目的防災網は虫害や雹害など他の被害対策にも有効であり、安定的な梨栽培に欠かせないものです。

現在、本市では多目的防災網に対する県からの補助があるものの、補助率が低く、十分なものとは言えません。有害鳥獣に係る多目的防災網への市からの補助については、令和2年度、令和3年度に提出した意見書においても要望しておりますが、予算の確保には至っておりません。

令和5年度においては、多目的防災網に対する市の上乗せ補助について、是非とも予算を確保していただきたい。

また、県からの補助は多目的防災網の新設は対象となるが、張替えは対象外のため、張替えに対する市独自の事業を創設されたい。

### 2 第三者継承の促進

農業に関するアンケートでは、農業後継者が「いない」「わからない」と答えた割合が75%となるなど、後継者不足が深刻であり担い手確保の取組強化は急務であります。

農業経営の設備や技術を親族以外の者に譲る第三者継承は、幅広い層から後継者を募ることができるため、担い手確保に有用です。同アンケートでは、第三者継承について「良いと思う」と答えた割合が49%となっております。

「経営継承・発展支援事業」は、担い手から経営を継承した後継者、第三者に対し、経営発展に係る費用を補助することで、将来の担い手を支援するものであり、第三者継承の促進に繋がるため、本市においても、事業活用に向け予算確保を願いたい。

また、後継者不足により梨農家の離農が増加している中で、地域の担い手や新規就農者が離農者の梨園を円滑に引き継ぐことができれば、減少を食い止めることができると考えられますが、梨栽培には専門的な技術の習得が欠かせず、その習得に相当の期間を要します。

そこで、研修受け入れ可能な梨農家や離農予定の梨農家を市でリストアップし、新規就農希望者や規模拡大を希望している担い手に繋ぐことで、円滑な継承を促進できるよう取組を検討されたい。

### 3 稲作農家に対する補助事業の創設

コロナ禍の影響で、外食産業におけるコメの需要が大きく減少し、主食用米の在庫が積み上がったことで米価が下落していることから、米の生産意欲が低下しており、水田の更なる遊休化が懸念されます。

そこで、主食用米の生産を行う農家に対して、作付面積当たりの補助金を交付する等、農業収入の底上げにつながるような事業を創設されたい。

また、飼料用米やWCS（稲発酵粗飼料）の生産を増加させ、水田のより一層の有効利用を促進するため、新規需要米生産支援事業の予算確保を願いたい。

### 4 肥料・資材価格高騰への対策

ウクライナ情勢や急激な円安の影響により、肥料・資材価格が高騰しています。特に肥料価格の高騰は著しく、農家の経営を圧迫しています。

国による肥料価格高騰対策事業は、施肥量低減への取組が要件となっており、対象となり得る農家が限られていることから、独自で補助を行う自治体が増えてきており、県内においても昨年度の肥料購入代金の10%を補助すると決定した市があります。

そこで、八千代市においても、肥料や資材の購入に係る経費に対する補助事業を創設されたい。

ご案内

# 農業者年金の 3つのメリット

## メリット 1

### 女性に優しい

- ・奥様も単独で入れます
- ・女性農業者の長い老後をしっかりサポートします！
- ・家庭経営協定で保険料補助も

## メリット 2

### 若年層には 手厚い政策支援 (保険料補助)

- 国民年金第1号保険者等の農業者年金への加入要件に加え、
- ・39歳までに加入
  - ・農業所得が900万円以下
  - ・認定農業者で青色申告者等を満たせば受けられます

## メリット 3

### 税制面で 大きな優遇

- ・支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となり、節税効果に
- ・積立方式・確定拠出型で少子高齢時代でも安心

農業者年金にはこの他にもメリットがたくさん！

## 老後の備えは 国民年金＋農業者年金 で！

農業者は長生き！

65歳からの平均寿命は…

男性 22年



- ★国民年金第1号被保険者(納付免除者を除く)・60歳以上65歳未満の国民年金任意加入者
- ★年間60日以上農業に従事
- ★20歳以上60歳未満の方 ならどなたでも加入できます

女性 27年



問い合わせ先

農業者年金のご相談・加入申込みは、JA八千代市（☎450-3711）または農業委員会事務局（☎421-6793）へ。

令和4年11月発行  
第49号

発行 八千代市農業委員会  
編集 広報委員会

〒276-8501  
八千代市大和田新田312-5  
電話047(421)6793  
URL <http://www.city.yachiyo.chiba.jp/500500/index.html>

## 編 集 後 記

今年も例年に無く暑い夏が来ました。広報の編集に携わって早いもので、2年を過ぎ任期残すところ1年を切りました。今年の収穫も実り多きことを期待しながら農作業に励んでいます。



広報委員 立石 猛